

やまがた 他孫（たまご）育て支援事業

シニアからはじめる子育て支援

この事業の目的は、活力・意欲のあるシニア層の子育て支援活動への参画を促す取り組みを行い、地域の子育て支援活動とシニア層を結びつけることで、子育て支援の裾野を広げ、地域全体で子育てを支える環境づくりを行うことです。

令和2年度から始まったこの事業も5年目となり、今年度もシニアボランティアのきっかけづくりとして、『やまがた他孫（たまご）育て講座』を開催しました。

また、今年度は講座の一部を録画し、後日、動画による配信も行いました。



やまがた他孫（たまご）育て講座

日時：令和6年11月12日（火） 13:00～16:00
会場：児童遊戯施設 ベにっこひろば

講演

何が変わった？変わらない？
イマドキの子育て・孫育て
・他孫（たまご）育て

講師

NPO法人孫育て・ニッポン
理事長 棒田 明子氏

講演

子どもの成長と発達を知る
～安全な関わり方と
対応について～

講師

助産師
酒井 由美子氏

何が変わった？変わらない？



イマドキの子育て・孫育て・他孫（たまご）育て

講師：NPO法人孫育て・ニッポン 棒田 明子氏

山形市出生数の推移

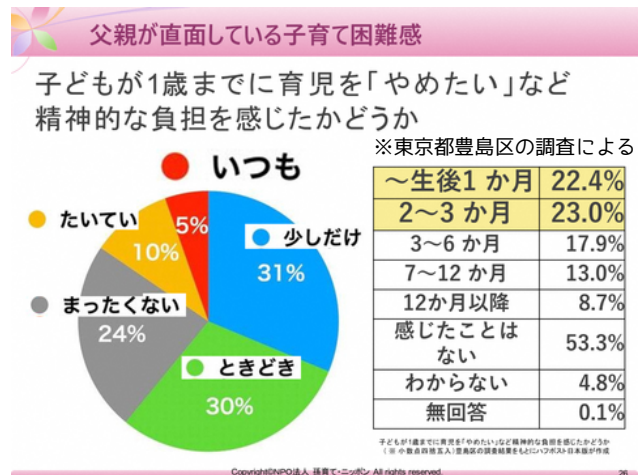
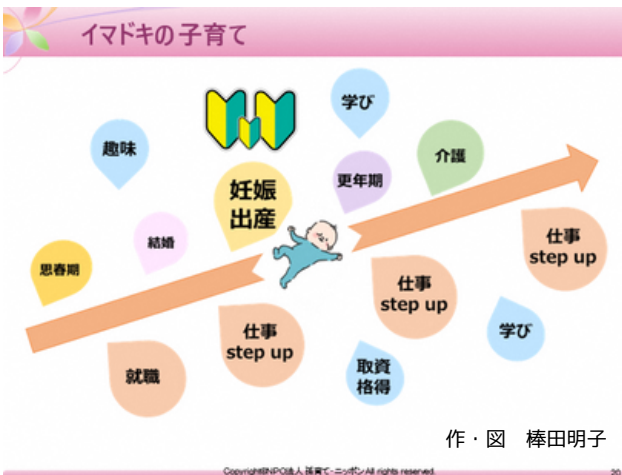


令和5年の出生数は、1437人！40年前と比べると、出生数は半数以下となっています。一世帯あたりの人数も、令和4年度で2.36人、令和5年度では2.33人と、年々減少しています。

少子高齢化がもたらす 親族の絆の危機

昔は、両親共にきょうだいが多く、おじ・おばがたくさんいました。しかし、一人っ子同士のパパとママから生まれた子には、おじ・おば・いとこがいません。家庭の中の人数の減少に伴って、親族も減少しています。何かあったときに、手を差し伸べてくれる大人がいない・・・親は育児の相談ができる人がいない・・・子どもは一人っ子で、見たり真似たりする機会がない・・・家族や親族を通して社会性を身につけることができない・・・

子育てへの不安感・負担感



共働きの家庭が増加したことにより、世帯収入は増えましたが、子育てが楽になるわけではありません。家に帰ってから仕事や子育てをこなし、パパもママも疲弊しています。また、近年では育児休業を取得する男性も増えてきましたが、育児を「やめたい」など、精神的な負担を感じたことがある父親も増えています。イマドキの子育て家庭は、子育てに対して不安感や負担感が大きくなってきています。

子どもの泣き声を聞いていますか？

みなさんは、最近外で子どもの泣き声を聞きましたか？パパやママたちが、子どもにスマホを見せる理由は何でしょうか。それは、子どもが静かにしてくれるからです。なぜなら、外で泣いている子どもを人目にさらすと、「子どもを泣かせるなんて虐待だ」「この母親はだめな母親だ」と思われてしまうから。子どもは泣いて当たり前なのに、いつの間にかこういう社会になってしまったということです。大人が、子どもの泣き声に対しての免疫力がなくなってしまったのです。

そこで、他孫育て！



子どもの成長を喜んでくれる人
悲しいときは一緒に悲しんでくれる人

血縁関係のないおじさん、おばさんなら増やせる！

血縁関係のあるおじ・おばは増やせませんが、血縁関係のないおじ・おばは増やせるのです。ここで活躍するのがシニア世代なのです。子どもの成長を喜んだり、悲しいときは一緒に悲しんだり、他孫に関わって一緒に成長を見守っていきましょう。

最弱の哺乳類→最強の哺乳類へ

人間は生まれたときは最弱の哺乳類と言われていますが、二歳になると、最強の哺乳類になります。パパやママだけでは大変で、押しつぶされてしまうこともあります。でも、他孫を持つみなさんの力があると、最強の哺乳類へも立ち向かっていけるのです。その後小学校へ入学する頃には、家族より友達との付き合いを大事にしていくのですが、ここでまた、他孫を持つみなさんの出番です。歳の離れた友達として、親に話しにくいこともポロっと話してくれることもあります。子どもには挨拶をきちんとしてほしいと望んでいる親が多いので、他孫に声を掛けて関わっていくことは、親の望みを叶えることにも繋がります。

泣いても大丈夫だよと伝えてあげましょう

泣いている子がいたら、「泣くよね～、でも大丈夫だよ」と声をかけてあげましょう。今のパパもママもとっても真面目で、一生懸命調べて子育てしています。子どもにも、ママたちにも、「泣いて当たり前、泣いても大丈夫なんだよ」「私たちもそうやって子育てしてきたんだよ」と伝えてあげましょう。子どもは泣くのが当たり前の世の中になれば、もっと子育てしやすくなりますよね。

楽しみながらやりましょう

他孫育てという、すごく難しいことかなと思う人も多いと思いますが、どうせやるなら、楽しんでやりましょう。他孫と関わって、ちょっとしんどくなったときは、お休みしても大丈夫です。楽しく続けられることが、大切なのです。私たちも助けて！を言っている。どうせやるなら、おもしろがりますよ。

子育てで大切なことは変わっていない
変わったのは、やり方、道具など

子どもに手間をかけ、愛情をかけることは、今も昔も同じ

ちょっとだけ、たまご育て 「ちょいたま」

- ・バスや階段でベビーカーを待つ
- ・電車で席を譲る、レジ、トイレを待つときに、子育て世代に譲る
- ・押し入れにおむつとミルク（非常用）
- ・近所の子どもたちの名前を覚える
- ・庭に実のなる木を植える（子どもが喜ぶ）

子どもの成長と発達を知る

～安全な関わり方と対応について～

講師：助産師 酒井 由美子氏

乳幼児期について

人間の赤ちゃんは、心身ともに未熟な状態で生まれてきます。しかし、その後、急速な発育・発達をします。

ゆえに保育者は・・・

- ・ 乳幼児の正常な発育・発達を知る
- ・ 社会生活を営むための基本的信頼関係や生活習慣を、
日々の育児を通して伝えていく
- ・ 自分から表現ができないため、観察が必要
- ・ 乳幼児は『大人の小型』ではない
- ・ 乳幼児の死亡原因は病気より事故死（特に家の中）が多い



乳幼児期に毎日毎日、何回も何回も繰り返して行われる授乳やお世話を通して、親子の基本的信頼関係を築いていきます。そして、母子から父子、父子からきょうだい、友達、保育者との関係へと広がっていきます。つまり、基本的信頼関係が築かれて、自己信頼感→他者信頼感を形成します。愛されて育った子は、将来、人を愛することができるのです。（逆もあり）

乳幼児健康観察のポイント

- ・ よく笑って、機嫌がよいか
- ・ 元気に飛び回って遊んでいるか
- ・ 食欲があるか
- ・ よく眠っているか
- ・ 便尿の回数・量・色に変わりはないか
- ・ 体温・脈・呼吸に変わりはないか
- ・ 顔色や表情、外見上に変わりはないか

変だなと思ったら、観察！
保育者の **感** を大切にしてください

—酒井先生からの **イチ** アドバイス—

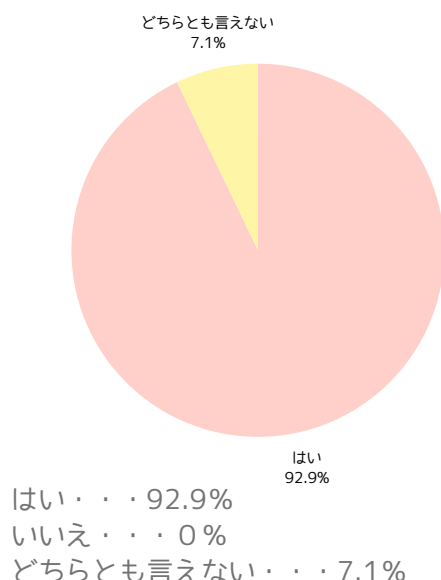
保冷剤は2種類あると便利です！

冷凍・・・熱があるとき
冷蔵・・・打撲したとき
転んで冷やすとき

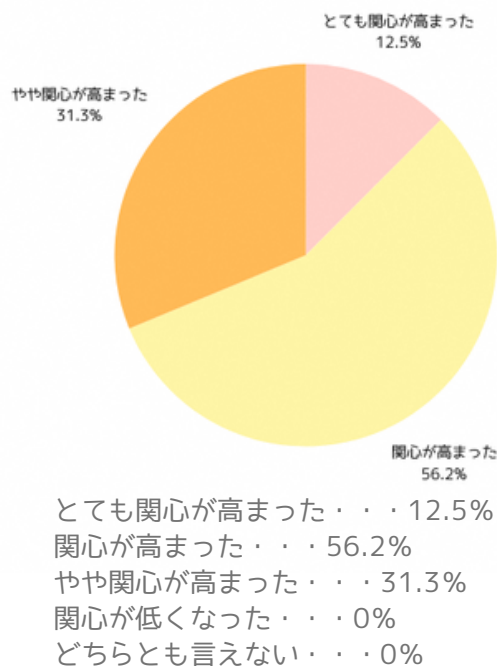
3才までは肌を離さず
7才までは手を離さず
13才までは目を離さず
19才までは心を離さず

～アンケートから～

講座は、子育て支援活動に役立つ内容でしたか？



地域の子育てへの関心について、気持ちに変化はありましたか？



講座の感想をお聞かせください

- ・こどものことについて復習できて、ためになりました。また、同じ地域に住む者として、何かできないかと考えていましたが、少しスッキリしました。
- ・子どもの成長・発達について具体的でわかりやすかった。子どもの病気や事故の対処法の今を知ることができてよかった。他孫育てはママやパパをあたたく見守ることが大事なのかなと思った。
- ・子どものことについて復習できて、ためになりました。孫への関わりについて勉強したいと思っていましたが、孫へのあるあるとか、勉強になりました。
- ・今日の講座を拝聴し、子どもの成長・発達に合わせた安全な関わり方の内容は新鮮で、もっと早く知っていたら・・・と思いました。こうした内容を妊婦さん（父親）にもお知らせくだされば、大変ためになるだろうと思います。
- ・とても充実した講座内容で、今後にかしていきたいと思います。
- ・現代の子育ては楽なようで大変だと思いました。
- ・二人の先生のお話が上手で、とてもわかりやすかったです。やまがた他孫育て講座に参加して良かったです。自分の孫育ての参考になりました。また、他人の孫を見かけた時には、本日のお話を参考に接してみます。

講座内では、近くの席の方と自己紹介をしたり、自分ができる「ちょいたま」を発表し合ったりしました。みなさん生き生きと受講されている姿がとても印象的でした。何かしたいけれど、何ができるのかわからない、どんなことをしてほしいのかわからないと話す方もいました。また、今は仕事があってできないが、今後ボランティアをしてみたいという方もいました。みなさんの、「何かしてみたい」気持ちのきっかけづくりになった講座となりました。